

一人ひとりの意識と行動

平成の御代も最後の年の元旦を、恙なく迎えられたご信者ご一同に、謹んで新春のお慶びを申し上げます。今年は5年にわたる高祖日蓮大士ご降誕800年の、記念ご奉公の2年目です。一人ひとりが報恩教化の思いをしっかりと持ち、また4月の「青少年の一座」を全信徒の力を結集して成功させようと努めることで、お祖師さまにお悦びいただける報恩行が展開され、以てご信者それぞれが信行の功德で幸福に満ちた一年となりますよう、ご祈念を申し上げます。

ところで起稿中の今、廃棄したスプレー缶が大爆発をした札幌の惨事が報道されています。不動産業者の杜撰な実態と同時に、建物を倒壊させるほどの小さな缶の威力に驚かされた人も多いでしょう。かつてスプレー缶に使われた不燃性のフロンガスは、地球のオゾン層を破壊すると分かって以来、可燃性の液化石油ガス(LPG)に代わりました。その危険性を認識すべきとテレビは注意を呼び掛けています。聞きながら、「そういえば、オゾンホールはどうなったろう」と考えました。

太陽の強力な紫外線を吸収する成層圏のオゾン層が、南極で薄まっていると報告されたのは35年ほど前でした。オゾンホールは、人工衛星からは穴が開いたように見えることからの命名です。これにより様々な悪影響が心配され、1987年のモントリオール議定書でオゾン層破壊物質が規制されます。調べてみると、その効果でオゾンホールは確実に縮小していると3年前にNASAが報告しています。札幌の件も、そんな環境問題への関心に繋がればと思います。

地球環境の急激な変化に対し、フロンガスの問題は皆の努力で光が見えてきましたが、ポーランドで開催されたCOP24(国連気候変動枠組条約締約国会議)の二酸化炭素の削減は、調整が難しいようです。地球の歴史の中で、かつてなかった二酸化炭素の濃度へと急上昇し、温暖化が加速していると警告されて半世紀以上になるでしょうか。北極の氷冠はどんどん減少し、世界中の氷河も急速に溶けています。身近なところでも毎年のように最高気温は更新し、熱中症で亡くなる方が増え、台風は年々大型化して世界各地を襲い、局所的な豪雨災害も当たり前になりつつあります。これらは、この数十年で爆発的に人口を増やした人間の、快適な生活を求めた代償として進行中の危機的な兆候ですが、自身の問題と捉えて努力する人は少ないようです。

省エネの家電や車を選んだり、エアコンや待機電力を節約するのはもちろん、紙の無駄遣いをやめれば森林を守り、肉の消費量を減らすと牧草地を守って、二酸化炭素の増加を抑えます。遠方のお取り寄せより地元の食材を使えば移送するトラックの二酸化炭素が減り、過剰包装をやめればビニールや発泡スチロール等のために使う化石燃料が減ります。大切に物を使って長持ちさせるだけでも、皆がやれば二酸化炭素の発生は随分と抑制される…等と、つまり私たち一人ひとりの意識と行動の差は、地球の環境さえも大きく変えるのです。心が世界を創ると教わる仏教徒として、地球や周りの人々への意識を高く持ち、行動ができる一年にしたいと思います。

(松風寺月報 平成31年新年号)